



日曜日の午前9時30分「おはようございます」の元気な挨拶とともに、手にはスコップ、首にはタオルを巻いた軽米地区の方々が堤防上の道路に集まってくる。これから、平成11年の集中豪雨により新たに整備された雪谷川の堤防上の道路と一緒に舗装しようというのである。

事の発端はこうである。平成15年に二戸地方振興局が開催した地域県政懇談会の席上で、軽米町の方から「何とか雪谷川堤防上の道路を舗装して貰えないだろうか。草を刈る時には石が跳ねるし、地元の散策路や通学路にもなっているので・・・」との要望が出された。

堤防上の道路は、河川管理用のためなので通常は舗装しない。しかし、ここの道路は地域の方々の日常生活に広く利用されている。舗装するにはお金がかかるが、なんとかこの要望を実現するよい方策はないだろうか。さっそく振興局土木部が中心となって関係者といろいろ知恵を出し合った結果、良いアイデアが出てきた。それは舗装材料にストックしてあるアスファルト切削材を活用し、この敷き均し作業は地域住民と県・町の職員が協働して行えば費用はほとんどかからないし、最低限必要な乳剤散布や転圧機械などは「地域活性化事業調整費」で対応してはどうかという案であった。さっそくこのアイデアを実現すべく、関係機関との協議や予算要求などが進められ、翌平成16年10月、土・日の休日を利用して二日間で800mの舗装工事に挑戦することとなったものである。

当日、オープニングセレモニーもそこそこに、作業開始である。手順はダンプがところどころに山積みにした材料を人力で敷き均し、それを転圧機械で締め固め、次に乳剤を散布しその上に砂を撒いて完成である。早速、私もスコップで均してみるが、思ったより重く重労働である。あたりを見回すと地域の方々に混じって町長さんや女性職員の顔も見える。みな額に汗しながらも生き生きと作業に取り組んでいる。乳剤散布では、飛散防止のためのベニヤ板を押さえる作業があり、簡単そうなので率先して引き受けたが失敗であった。あとでズボンを見ると一面に細かな乳剤が付着しており、もう履けそうにもない。最後に砂を撒いて、総勢70名の協働作業による800mの立派な舗装道路が完成した。皆さんの顔に笑顔と達成感が満ち溢れている。11月には、小軽米地区で2回目の作業を行い、合計で1500mの道路を舗装したが、通常の舗装工事であれば480万円ほど必要となるが、協働作業により約4割の190万円で済み、大幅なコスト削減が達成出来た。

これは私が二戸地方振興局に勤務していた時に住民参加で実施した「結いのみちづくり」の概要です。いま県では、このような地域住民との協働による地域づくりを推進しております。昨今、県財政が極めて厳しい環境にあっては、行政だけではどうにも立ち行かない状況にあります。地域が主体性を持ってアイデアを生かしながら地域づくりに取り組むことで、地域力が高まり、愛着を感じられる地域を創造することが出来ると思います。県土整備部でも、より良い地域づくりのために「県民参加のガイドライン」と県民参加・NPO協働を推進するための「県民参加の推進プログラム」を作成して、地域住民の参画・協働による地域づくりを推進しており、いま各地域で様々な取り組みが行われつつあります。

私たちが平成16年・17年に雪谷川ではじめた「結いのみちづくり」は、今年軽米町が「ユイコのケアドール事業」を創設して、町が引き継いでいくことになりました。なんともうれしい限りです。この輪がもっともっと県内に広がっていくことを期待しております。皆さんもチャレンジしてみませんか!

